

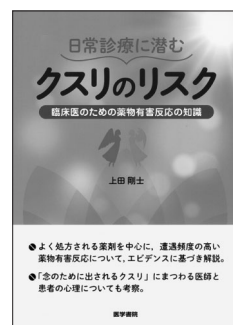
薬の副作用のエビデンスリソース

『日常診療に潜むクスリのリスク 臨床医のための薬物有害反応の知識』

上田剛士(著)

評者：徳田安春 群星沖縄臨床研修センター長

●A5 頁164 2017年
定価：本体2,800円＋税
[ISBN 978-4-260-03016-8]
医学書院 刊



医療現場でクスリの副作用ケースが増えています。高齢化、マルチモビディティ、ポリファーマシー、新薬開発、ガイドラインによる推奨などが要因です。それでも、処方した医師には副作用を早期に発見し対処する責任があるといえます。そのためには処方する医師には「特別」な学習が必要です。なぜ特別かという、悲しいかな、薬の副作用についての臨床的に役立つ実践的な知識は薬のパンフレットや添付文書を熟読しても習得できないからです。

本書はそのような実践的な知識をコンパクトにまとめてエビデンスを提供してくれる新しいタイプのリソースです。著者は総合診療エビデンス界のプリンス、上田剛士先生(洛和会丸太町病院救急・総合診療科)。本書では、得意技である円グラフを駆使して、徹底的な科学的

エビデンスを提供してくれています。

まずは総論からスタート。いかに薬剤の副作用が多いかがわかります。その背景因子についてのエビデンスが記載されています。そして各論はコモンな薬剤の副作用について、薬剤と代表的な症候の両面からの切り口で紹介されています。図表も豊富であり、各章の最後には箇条書きでまとめが付いており、記憶にも残りやすいように工夫されています。

自分が処方した薬で副作用を落としたケースで辛い思いをした医師は多いと思います。本書を読んだ医師が実臨床でこれを活かすことにより、副作用ケースの早期発見と早期対応のレベルをアップし、日本の医療の質がさらによくなると確信します。